

式 辞

日毎に明るさを増す朝夕の日差しに新しい春の訪れを感じる今日の佳き日に、多数の御来賓の皆様のお臨席を賜り、令和六年度 愛媛県立南宇和高等学校卒業証書授与式をこうして挙行できますことは、私たち教職員一同、この上ない喜びであり、御臨席を賜りました皆様に厚くお礼を申し上げます。

また、卒業生の保護者の皆様には、入学以来三年間、健やかな成長を願い、支えてこられましたその愛情の深さに敬意を表しますとともに、本日、晴れて御卒業の日を迎えられましたことに心からお喜びを申し上げます。

さて、ただ今、卒業証書を授与いたしました卒業生の皆さん、おめでとうございます。「さまざまのこと思ひ出す桜かな」という松尾芭蕉の句があります。桜の開花にはもう少しかかるでしょうが、皆さんの胸中には、この三年間の数々の思い出が次々と去来していることと思います。私は、皆さんとは、一年だけのお付き合いでしたが、学校生活のあらゆる場面で見られた、皆さんの素直な心、明るい笑顔、さりげない優しさにふれる度に、たくさんの勇気と力をもらいました。本当にありがとうございます。縁あって、南高で皆さんと巡り会い、学校生活を共にできたことを、心から感謝しています。

「一期一会」という言葉があります。茶道に由来していますが、それに限らず今では、「人との出会いや物事を行う機会は、生涯で一度きりであり、二度と同じ機会は訪れない。だからこそ、この一瞬を大切に思い、誠意を尽くそう。」といった意味で、様々な場面で広く使われています。私も、そう心掛けながらも、なかなか実践できていないときもありはしますが、皆さんとの出会いも「一期一会」であったと今つくづく感じています。人は人によって磨かれ、成長します。これから出会う、たくさんの人と出来事と、誠実に向き合ってください。そして、この南高で身に付けたことなど過去の自分に支えられながら、新しい環境で、うまくいくことばかりではないとしても「今が充実している、今の自分が好きだ」と、そう思える日々を卒業生の皆さんが送ることを願っています。

今後たくさんの素敵な出会いが待っているであろう皆さんへのはなむけとして、南予で高校教員もされていた詩人、坂村真民さんの「二度とない人生だから」の冒頭を送ります。

「二度とない人生だから 一輪の花にも 無限の愛を そそいでゆこう 一羽の鳥の声にも 無心の耳を かたむけてゆこう」

名残は尽きませんが、それぞれの人生という大海へと船出する九十五名の卒業生の皆さんが、校歌にあるとおり、「伝統」を胸に「清新」の心をもって「躍進」することを心から祈念し、式辞といたします。

令和七年三月一日

愛媛県立南宇和高等学校長 清水 幸一